

(様式2)

# 農業の新しい技術

No.605 (平成21年9月)  
分類コード 01-04  
熊本県農林水産部

## 年内に収穫できる阿蘇タカナ系統の選抜

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室  
担当者：古閑三恵

### 研究のねらい

阿蘇地域では、タカナが秋期播種、春期収穫により栽培され、抽だいたした花茎が漬物用として用いられているが、採種は主に個人や漬物業者によるため各地域で形質が異なるなど、系統が分化している状況にある。また、近年は新漬けに対する需要も多く、春季以外にも安定して抽だいたする形質が必要となっている。そこで、阿蘇地域より収集された系統から、抽だいたが安定して早い系統の選抜を行った。

### 研究の成果

1. 阿蘇地域より収集した系統の中から、10月播種により12月までに開花する系統を選抜した(表1)。
2. この選抜系統を8月中旬から10月中旬までに播種すると、本葉が約8枚展開する時期に花蕾が確認され、12月中旬までに100%が開花する(表2)。
3. 播種から開花までの日数は気温の低下とともに長くなり、平成20年の気象条件では、8月下旬播種で約30日、9月中下旬播種で約35日、10月上旬播種で約40日である(表2)。

### 普及上の留意点

1. 第1花茎の開花時の長さは15~30cmと短いため(表2)、その後発生する分枝を収穫する。
2. 8月中旬~9月の高温期の播種では、ヨトウムシ、カブラハバチ等の食害により、幼苗期に甚大な被害を受けやすいため、防除等の対策が必要である。
3. 採種および栽培は、農産園芸研究所内の露地ほ場において行い、施肥量はN、 $P_2O_5$ 、 $K_2O$ を成分量で各2kg/aとした。
4. タカナを含むカラシナ類は虫媒によって容易に交雑が起こるため、採種の際は隔離するか他品種・系統と十分に距離をあけるなど、他のアブラナ科の花粉がかからないよう注意する。

表1 阿蘇タカナ収集系統および開花個体の自殖第1代における開花特性

収集地	平成18年度		採種 (開花個体の自殖)	平成19年度	
	開花個体数 (12/20まで)			系統 番号	開花個体数 (12/20まで)
内牧	2 / 30 ( 7%)	→	内牧	28 / 40 (70%)	
草部	0 / 30 ( 0%)		永草	39 / 40 (98%)	
高森	0 / 30 ( 0%)		永草	24 / 40 (60%)	
永草	5 / 30 (17%)		永草	35 / 37 (95%)	
湯浦	0 / 30 ( 0%)		永草	29 / 30 (97%)	
			永草	30 / 40 (75%)	

注) 平成18年度は10月12日播種、平成19年度は10月2日播種

表2 阿蘇タカナ選抜系統(自殖第2世代)における開花特性(平成20年度)

播種日 (A)	花蕾 確認日	同左 葉数	開花日 (B)	開花個体数 (12/15まで)	開花まで日数 (B-A)	開花時 花茎長(cm)
8/12	-	-	9/ 5	20 / 20(100%)	24	-
8/22	9/12	8.0	9/22	20 / 20(100%)	31	-
9/ 2	9/24	7.9	10/ 3	22 / 22(100%)	31	30.0
9/12	10/ 7	7.7	10/17	28 / 28(100%)	35	-
9/22	10/19	7.0	10/28	26 / 26(100%)	36	-
10/ 2	10/30	7.0	11/11	30 / 30(100%)	40	-
10/12	11/19	7.1	12/11~	1 / 28(3.5%)	60	15.0

注1. 用いた系統は、表1の永草、およびの開花個体を隔離して採種した種子である。

2. - : 未調査(8/12播種の花蕾確認日および葉数は、虫害のため未調査)

3. 花蕾確認日および開花日は、8割で花蕾が確認された日および第1花が開花した日。ただし、10/12播種の開花日のみ、開花開始日を示す。



図1 花蕾確認時の状況  
(平成20年9月2日播種、9月20日撮影)



図2 開花時の状況  
左: 対照(非開花系統)、右: 選抜系統  
(平成20年8月22日播種、10月7日撮影)